

諏訪地方の 経済概況 速報

2017.06

2017年5月末調査／2017年6月29日発行

SUWA AREA
ECONOMIC
OVERVIEW



諏訪信用金庫
SUWA SHINKIN BANK

諏訪地方の概況

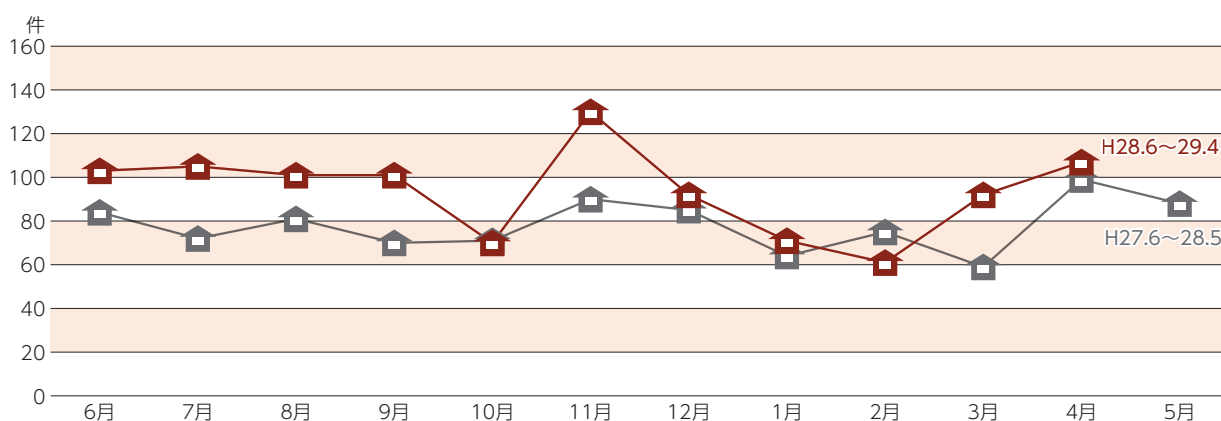
5月は、世界経済の回復に伴い、日本経済も安定したテンポの景気拡大が続いた。1～3月期の国内総生産(GDP)は年率1.0%増で5四半期連続のプラスとなった。ただ、GDPの安定回復の半面で、賃金や物価に対する消費者の体温は上がらず、持続的な消費持ち直しには至っていない。また、フランスと韓国で新大統領が誕生し国際情勢が変動期にある中で、北朝鮮のミサイル発射問題、アメリカのトランプ大統領の政策手腕への不信感など不安定要因もある。

諏訪地方では、製造業は半導体製造装置関連や省力化機械関連、自動車関連を中心に、総体的に受注は堅調に推移している。非製造業は、商業が消費者の節約志向の影響で業況はまちまちとなり、観光業は、日並びと好天でゴールデンウィークの入り込みは総体的に好調だった。建設業は年度初めの低調さがある。また、人手不足感はほとんどの業種でさらに強まっている。

(諏訪信用金庫の取引先約130社へのヒアリング調査による取りまとめ)

		実 数	前年同期比	
有効求人倍率【4月】(諏訪公共職業安定所管内)		1.54倍	0.30ポイント	
手形交換高【5月】(諏訪手形交換所扱)	枚 数	5,882枚	△630枚	
	金 額	8,861百万円	△533百万円	
	うち不渡り発生状況	枚 数	0枚	0枚
		金 額	0千円	0千円
車庫証明取扱件数【5月】(諏訪地方合計)		933件	7.7%	
新設住宅着工戸数【H29年4月】(諏訪管内)		107戸	8.1%	

■新設住宅着工件数の推移(諏訪地方合計)



製造業

「多くの業種で回復傾向」

国内景気のけん引役となっている半導体製造装置関連は、あらゆるモノがネットにつながるIoTやスマートフォンでの動画視聴の普及などでデータ容量が増え、保存に必要な半導体の需要が拡大する構造的な変化がある。また、中国メーカーがスマートフォンの機能向上で半導体の搭載量を増やすなどのIT需要もある。諏訪地方の半導体製造装置関連を扱う企業には、生産が追いつかないとする企業もあり、当面は持続する見方が多い。また、多くの業種で省力化機械の需要が旺盛で、「受注残高はバブル期のピークを上回った」とする企業がある。増産や人手不足の解消に向けた設備投資の動きも盛んになってきており、例年、7月までは動きが鈍い時期とする機械卸業は、今年は早くから動き始め、前年より中小企業からの受注が増加している企業もある。自動車関連の受注は、米国の動きが懸念されるものの、総体的に前年より増加傾向となっている。

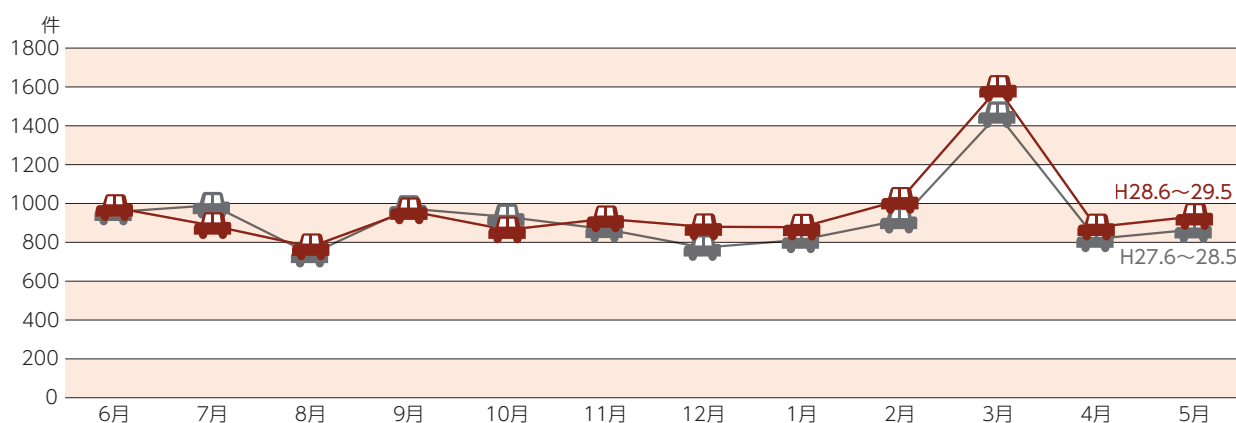
金属製品 プレス、メッキ、熱処理など	メッキや表面処理は半導体業界や自動車業界から増産要請があり、総体的に受注が増加傾向となっている。機械装置関連も増加傾向で、国内向けでは省力化機械やロボットなどに使用される受注品が目立つ。首都圏のビル施工の需要で、アルミ加工の一定の受注量を確保した企業もある。増産要請に向けた対応策が必要とする企業も見られる。
一般機械 工作機械、専用機械、省力機械、検査機械など	搬送装置、検査装置、ロボット関連などは繁忙状態が続いている。半導体業界は増産のための設備需要が旺盛だが、一部で増加傾向から横這い状態に変化したとする企業がある。工作機械は低調に推移しているが、今後増加の兆しも見られる。ダイカストは全体的に上向きで推移し、一部生産が追い付かないとする企業もある。省力化機械関連では、受注を選別する繁忙状態の企業があるが、メーカーが所有する汎用品の備品在庫が国内で不足し、それに伴う納期遅れが生じるケースもある。
電気機械 家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、半導体関連など	中国のスマホメーカー向けや新型iPhone関連部品は好調を維持している。ただ、iPhone関連が一服するとみられる8月以降は減少予想もある。プリンター関連も安定的に推移し自動車用コンデンサーの需要も多い。エアコン関連は、中国が大気汚染改善で事業所向けエアコンの導入を国が推奨していることから、今後の需要が見込まれている。
輸送用機械 自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など	自動車部品関連は、取引先や取扱い部品によって差があるものの、トラックなど運送関連をはじめ国内メーカーの動きが回復し、前年より受注が増加した企業が増えている。当面は安定した推移となる見込みが多いが、好調だった米国の新車市場の減速やトランプ政権の動きを不安視する企業もある。船外機市場は世界で総体的に需要が多く、海外向け重機部品も好調で、一部航空関連でも旺盛な受注が見られる。減速機は自動車向けは横ばい状態で、中国の産業用機械向けで増加傾向となっている。
精密機械 時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など	光学業界全体の仕事量は前年に比べて増加傾向となっている。監視カメラは廉価な汎用品の需要は伸び悩み、高機能機種に一定の需要がある。今後、東京五輪やテロ対策強化に伴い、需要が増加する見込み。車載カメラなど自動車関連の受注も好調。ただ、原材料価格の高騰やコストダウン要請を懸念する声がある。見積もり量は多いものの、技術レベルに合わないケースもあり、収益に影響する単価設定が重要視されている。
製造業全般	健康や美容に良いというイメージで甘酒の需要が伸び、市場規模が広がり増産に動く酒造会社がある。寒天も関東圏で毎月寒天に関するテレビ放映があって引き合いが多く、在庫が減少している。ニットは業界が弱含みの状況だが、秋物に対する期待感は大きい。漬物は天候が良く野菜の価格が落ち着き、総体的に高い水準で推移している。製造業関連の卸売業では、非鉄金属や鋼材が自動車、半導体業界向けで好調に推移している。機械卸は、中小企業からNC旋盤の注文が増加している。

商 業 「消費者に節約志向強く、業種によってまちまち」

5月は、前年同月の御柱祭で売上を伸ばした店舗が、各種イベントの開催で減少幅を抑える動きがあった。国税庁による酒の安売り規制強化を前に、酒類の駆け込み需要も見られた。ただ、1世帯当たり消費支出が前年同月比でマイナスが続くなど、全国的に家計の節約志向は根強い。諏訪地方でも個店では家電製品の買い替え需要が盛り上がり、耐久財の平均使用年数が長期化する傾向がある。常連客の来店サイクルが長くなったとする理容店もあった。外食産業は店舗によって業況感がはっきり分かれている。休日の家族客が減少したり、企業の利用が少なく「冷え込んでいる」とする店舗の一方で、売上が伸びた御柱祭時をしのぐ売上となり「景気回復の好影響がある」とする店舗がある。

衣料	前年は御柱祭で法被等の売上が伸びた分、今年は減少。子供服の売れ行きも鈍い。
食料品	葉物野菜や果物等の青果の価格は安定し野菜の品質も改善している。近海で取れる旬の魚(アジ、イカ)は品薄となっている。
家電製品	今夏の猛暑予想でエアコンの動きが早まり、販売台数は前年を上回る動きとなっている。
自動車	諏訪地方の5月の車庫証明件数が933件で、前年同月比67件、7.7%増加した。7ヶ月連続で前年同月を上回っている。
ホームセンター	天候が良く、花や野菜苗など園芸用品に動きがあった。
飲食店	ゴールデンウィークの来店客は多かったが、それ以降の動きが伸びなかった。接客部門の人手が足りず、サービス面の低下を懸念する店舗もある。
書店	児童書、文芸書、文庫は堅調だが、雑誌とコミックが低調。個人のこずかいの範囲で購入できる雑誌等の買い物に対する財布のひもが固い。
靴店	値段が高めの女性用ウォーキングシューズに動きがあった。
コンビニ	女性客が増え、主婦層の惣菜等購入を意識した品ぞろえに効果があった。加熱式たばこの需要が伸びている。

■車庫証明件数の推移



観光・サービス業 「日並びと天候に恵まれGWは好調」

諏訪地方の5月の気候は晴れた日が多く、気温が高く降水量が少なかった。特に21日の諏訪は、長野地方気象台観測史上5月としては最高の30.4度の真夏日となった。今年のゴールデンウィークは休暇が取りやすい日並びとなり、天候にも恵まれたことから、高原の観光地では散策、家族ピクニック、ツーリング、グルメ客などの入り込みが多かった。諏訪湖周辺の施設は、前年同月比では御柱祭の影響で売上が減少した施設が多い。個人客が増加し、団体客は減少する傾向が続いている。諏訪地方からの旅行は去年は御柱祭で控えられたが、今年は動いている。

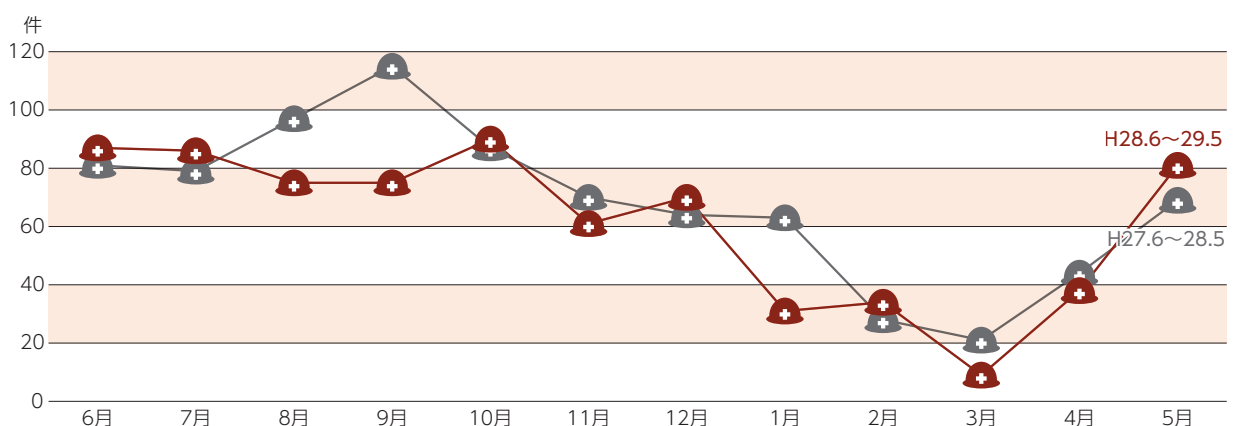
上諏訪温泉	施設別では前年比20%減～5%増と格差がある。東京、東海方面からの宿泊客は前年を上回った。GWの3～5日は各施設満館で、前半と6、7日に空いた施設があった。インバウンドの減少が、総体人数の減少に影響している。
蓼科・白樺湖・車山等	GWと週末はファミリー層などでにぎわった。各温泉施設は個人予約が増加しているが、日帰り客が中心で客室稼働率が上がらない傾向もある。富士見方面はMTBコースの新設で愛好者だけでなく家族連れの来場もあった。原村方面も個人客を中心に回復した。
下諏訪温泉	埋蔵文化財センターができ、修学旅行生が増加した。同地域では施設の変動があり、地元顧客の取り込みが課題となっている。
諏訪大社	上社・下社合わせた5月の参拝者数は約6万3千人。前年同月比では約4万人の減少(△39.0%)となった。

建設業 「国県の公共工事発注が低調」

5月の市町村からの受注工事は合計81件、642百万円となった。前年同月に比べ、件数は12件、契約金額は73百万円増加した。国県関係の平成29年4月と5月の累計公共工事(地元業者受注分)は、前年度より件数、契約金額とも減少した。御柱年の前年を下回る状況で、諏訪地域の新規工事調査案件も少ない。民間工事は、諏訪地方の4月の新設住宅着工戸数が107戸で、前年同月比8戸増加(8.1%)した。諏訪地方は前年から「貸家」が増加しているものの、人口増につながる「持家」や「分譲」が減少傾向となっている。

公共工事	5月に地元業者が受注した国県関係の公共工事は、諏訪建設事務所1件、県施設課関係1件、諏訪地域振興局林務課2件の合計4件で、契約金額は59百万円だった。4、5月の累計は、4月の受注がなかったため同数で、前年同期の累計比で件数は1件、契約金額は97百万円減少(△61.9%)した。市町村からの5月の受注工事は、建築工事3件108百万円、土木工事および下水道工事49件397百万円、その他工事29件137百万円となった。
民間工事	諏訪地方の4月の新設住宅着工戸数は、前年同月比の利用関係別で「持家」は10戸減少の55戸、「貸家」は20戸増加の52戸、「分譲」は2戸減少の0戸、「給与」は変わらず0戸だった。長野県内の4月の新設住宅着工戸数は920戸で、前年同月比10.9%減少した。前年同月比の利用関係別では、「持家」は2ヶ月連続の減少、「貸家」は3ヶ月ぶりの減少、「分譲」は3ヶ月連続の減少となった。

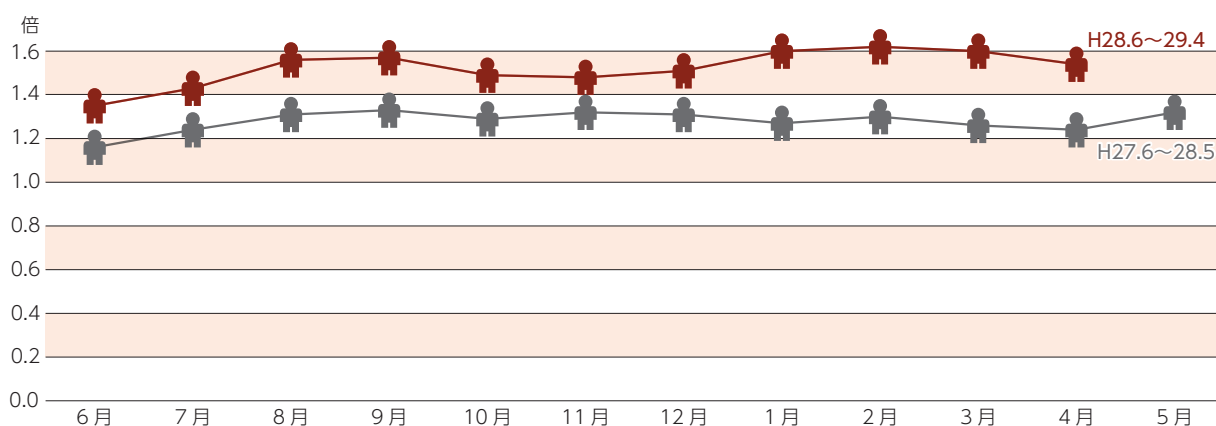
公共工事の推移(市町村合計件数 調査・測量・設計など業務委託は除く)



諏訪地方の4月の有効求人倍率は、前年同月を0.30ポイント上回り、前月を0.06ポイント下回る1.54倍となった。1倍台の維持は37ヶ月連続で、前年同月を上回るのは47ヶ月連続となっている。長野県平均は1.52倍で前月を0.04ポイント上回った。県内4ブロック全てで42ヶ月連続前年同月を上回り、34ヶ月連続で全国平均を上回っている。全国平均は1.48倍で、バブル期の最高(1.46倍)を超えた。完全失業率は2.8%となり「完全雇用」に近い状態が続いている。

諏訪地方の新規求人数(全数)は1,806人で、前年同月比160人増加(9.7%)した。要因別では、「継続する人員不足」が増加し、「業務量増大」「欠員補充」「創業・新分野展開」は減少した。業種別の前年同月比の新規求人数は「製造業」「飲食店・宿泊業」が増加し、「運輸業」が減少した。新規求職者数は955人で、前年同月比57人増加(6.3%)した。1件10人以上の人員整理はなく、事業主都合による雇用保険資格喪失者は110人で前年同月より61人増加、前月比では15人増加した。

■有効求人倍率の推移



《企業のひとこと》

- 職安へ提出する給与条件を当社では破格の金額にしたが、その額では採用できないと言われ愕然とした(輸送用機械製造業)。
- 働き方改革に伴う残業削減が難しい。パソコンを強制終了するが、限定的(一般機械製造業)。
- 抗がん剤が中国やインドを中心に増加する見通しで動向に注目している(薬剤関連機械製造)
- フィリピンに工場があるが、大統領政策の影響で治安が非常に良くなった(一般機械製造業)。
- 製造業の景気が回復し受注が増加した。鋼材の値上げが続き、今後も懸念される(鋼材卸業)。
- 昨年は御柱祭の影響でスニーカーの需要が増加したが、今年は例年並み(靴販売業)。
- 衣料品業界は食料、日用品を除いた他業界とのシェア争いとなっている(衣料品販売業)。
- 母の日は毎年、花や雑貨など堅調な売上となるが、父の日はその半分(大型小売店)。
- 東京五輪、豊洲問題の落としどころで建築関係はいろいろな影響が出る(建設業)。
- 働き方改革で、無理やり働かせるのは良くないが、強制的に仕事をさせないのもいかなものか(建設業)。
- 週間天気を確認した個人客から急に予約が入るので、売上予想がたてにくい(観光業)。

自転車ブームに伴い、部品・電気自転車メーカーのビジネスチャンスも

ジェトロ・ソウル事務所 所長 保科 聡宏 (下諏訪町出身)

2016年12月にジェトロ諏訪支所と諏訪信用金庫は「中堅・中小企業等の海外展開支援における連携強化に関する覚書」を締結しました。

2017年度は四半期に一度、諏訪にゆかりのあるジェトロ海外駐在員から現地の声をお届けします。

全国1,757kmの自転車道路が整備

自転車専用道路を走る自転車軍団、地下鉄・電車の先頭または最後尾の車両に自転車を持ち込む人々の姿、ごく一般的な韓国の休日の風景である。2016年4月現在、延べ1,757キロメートルの自転車道路が整備されている。全国に毛細血管のように繋がり、ソウルから釜山まではもちろん、全国すみずみまで自転車で楽しむことができる。

ブームにのり、自転車人口も急激に増え、人口約5,000万人の5分の1を超える1,200万人が「自転車族」である。関連市場の成長も著しく、2008年以来、二桁成長が続いており、市場規模は5,000億ウォン以上と拡大している。2009年1億5,126万ドルだった自転車輸入が、2015年には2億5,724万ドルにまで伸びた(表参照)。国別では中国と台湾からの輸入が多く、2015年輸入金額ベースで、それぞれ67.7%、25.8%の割合を記録しており、ドイツ、英国、米国などが続いている。

	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
中国	99,749	110,472	124,872	131,776	133,646	151,318	174,132
台湾	43,688	39,271	42,169	42,057	49,357	49,198	66,349
ドイツ	1,616	2,003	2,804	4,482	5,335	6,552	6,266
英国	545	1,421	1,881	1,822	3,115	4,011	3,533
米国	1,801	1,743	2,042	2,066	1,917	2,475	2,156
日本	2,034	2,414	881	838	922	785	949
その他	1,831	1,965	1,767	2,514	4,374	2,486	3,853
合計	151,264	159,289	176,416	185,555	198,666	216,825	257,238

(出所) 韓国貿易協会

高級仕様、派手な服装・装備などを好む

まずは、自転車の種類が日本と異なること。韓国では、日本でよくみかける「シティサイクル、いわゆるママチャリ」の概念がほとんどなく、MTB(マウンテンバイク)、クロスバイク(ハイブリッドバイク)、ロードバイクなど、レジャーに特化した自転車を中心である。最近の傾向は、自動車道路の整備が進んでいることもあり、よりスピードを重視するロードバイクのニーズが高まっている。

次の特徴としては、高級仕様の自転車購入や派手な服装・装備を好む傾向があげられる。前述の輸入統計のうち、2~5位を占める国々から輸入される自転車は、1台当たりの価格が数十万ウォンから数百万ウォンで形成されており、1千万ウォンを超えるものまである。また、韓国の「自転車族」は自転車を購入と同時に、専用の服、ヘルメット、靴、手袋、各種自転車装備などをフルで揃える性向があり、韓国人の見た目を重視する性向の延長線と言える。

ギアなどの部品、電気自転車など、日本企業のチャンスも

韓国の自転車ブームによる日本企業のビジネスチャンスもある。現在、完成自転車市場を占める日本メーカーのシェアはそれほど高くないが、韓国的高级自転車の大半が「SHIMANO」のギアを採用しており、「PANARACER」のタイヤ、「MKS」のペダルなども認知度が高い。自転車ブームがしばらく続くと予想される中、優れた技術力を武器とした日本部品メーカーの先行きは明るい。

また、最近、関心が高まっている電気自転車市場への参入も可能であろう。比較的と同分野の進出が遅れている韓国メーカーに比べ、日本企業は長年の研究・開発を通じ、実用化まで進んでおり、同分野の市場先取りにより、シェアを伸ばしていく必要がある。



自転車に占領された週末の電車車内



SUWA SHINKIN BANK

諏訪信用金庫

長野県岡谷市郷田二丁目1番8号

TEL 0266-23-4567 FAX 0266-23-8044

<http://www.suwashinkin.co.jp/>